

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(11月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2010年1～9月) ... 2
- ◆ドイツ工作機械貿易統計
(2010年第3四半期) 3

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：製造業設備稼働率は若干増加
(11月) 4
- ◆米国：設備機器購入優遇税制法が2010年に
成立 4
- ◆米国：製造業部門、17ヵ月連続で成長
(12月) 4
- ◆世界鋳造・工具・デザイン見本市
「Euromold 2010」が閉幕 5
- ◆独VDW、インプラント・人口骨関連の
フォーラムを主催 5
- ◆新国際中古機械・機器見本市「Usetec」、
出展スペースの予約順調 5
- ◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)
と資本財生産月次推移(12月) 6

3. 工作機械関連企業動向

- ◆ドイツ：MAG社、Samputensili社の歯車
工作機械工場を引き継ぐ 6
- ◆日本：Mikron Machining社とDKSH
ジャパン社、日本国内で事業強化 6

4. その他

- ◆ユーザー関連トピックス 7

5. 日工会外需状況(12月) 10

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(11月)

AMT(米国製造技術工業協会)及びAMTDA(米国工作機械販売協会)発表の受注統計(USMTC)によると、2010年11月の米国切削型工作機械受注は、3億316万ドルで前月比17.9%減、前年同月比97.0%増となった。

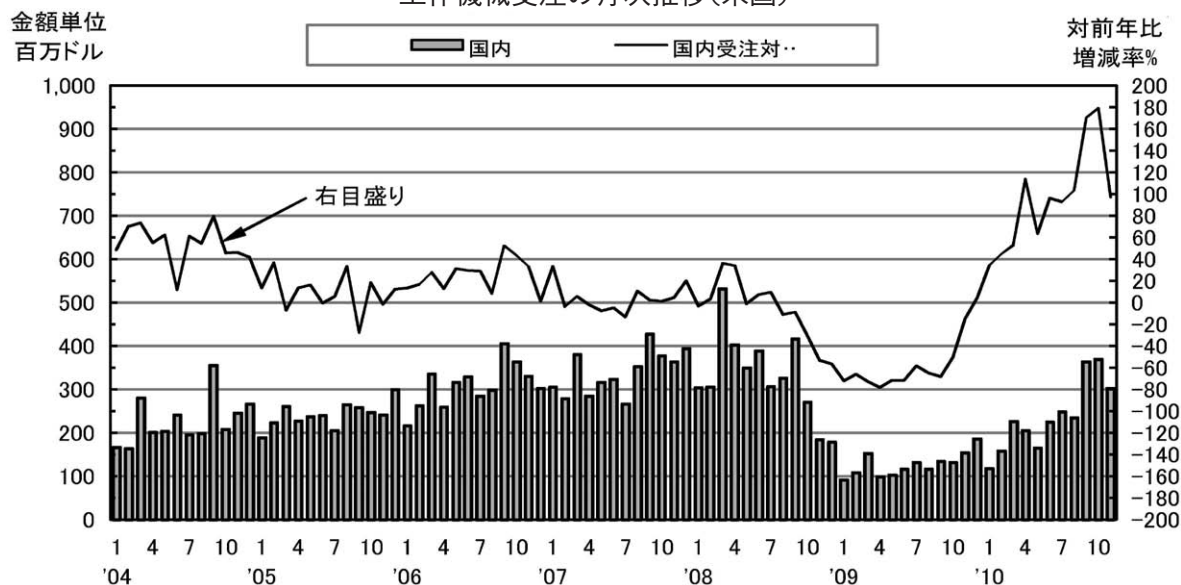
AMTDAのBorden専務理事は「11月受注は、米国製造業部門の回復を引き続き反映した数字となった。2011年の期待は増しており、通常よくあることではあるが設備稼働率は閾値を下回っているにも関わらず、購買意欲はある。供給ラインが急激な需要増に追いつこうと苦戦していることから価格は上昇する一方で、受注残と配送は長期化している。」と述べた。

(USMTCレポート 1月10日付)

米国工作機械(切削型)受注統計
(金額単位：千ドル)

年 月	受 注	
	台 数	金 額
2009年1月	694	91,390
2月	780	107,769
3月	963	153,364
4月	855	99,162
5月	814	103,608
6月	853	117,771
7月	907	131,996
8月	806	117,583
9月	920	136,133
10月	982	132,613
11月	945	153,872
12月	1,213	185,539
2009年累計	10,732	1,530,800
2010年1月	790	120,772
2月	910	157,446
3月	1,271	225,973
4月	1,235	206,342
5月	1,141	165,076
6月	1,385	224,688
7月	1,349	249,037
8月	1,332	227,087
9月	1,859	359,647
10月	1,946	369,223
11月	1,888	303,158
2010年累計	15,106	2,608,449

工作機械受注の月次推移(米国)



◆米国工作機械受注統計(地域別)

(単位：百万ドル)

地 域 別		2010年11月 (P)	2010年10月	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2010年累計 (P)	2009年累計 (R)	前年同期比 (%)
全 米	切 削 型	303.16	369.22	-17.9	153.87	97.0	2,608.45	1,324.71	96.9
	成 形 型	15.02	17.19	-12.6	21.81	-31.1	184.13	203.43	-9.5
	計	318.18	386.41	-17.7	175.68	81.1	2792.58	1528.14	82.7
北 東 部	切 削 型	58.18	94.79	-38.6	29.66	96.2	490.22	259.60	88.8
	成 形 型	4.50	2.57	74.9	2.95	52.8	33.65	35.24	-4.5
	計	62.68	97.37	-35.6	32.61	92.2	523.86	294.84	77.7
南 部	切 削 型	33.21	38.36	-13.4	23.02	44.3	356.52	186.26	91.4
	成 形 型	2.73	1.47	84.9	4.34	-37.2	28.24	28.43	-0.7
	計	35.94	39.83	-9.8	27.36	31.3	384.77	214.69	79.2
中 西 部	切 削 型	106.64	112.44	-5.2	44.17	141.5	806.10	375.84	114.5
	成 形 型	4.43	4.06	9.2	4.11	7.7	49.29	60.84	-19.0
	計	111.07	116.50	-4.7	48.28	130.1	855.38	436.68	95.9
中 部	切 削 型	69.30	87.50	-20.8	40.13	72.7	668.48	323.78	106.5
	成 形 型	2.00	4.92	-59.4	7.88	-74.6	54.30	47.97	13.2
	計	71.30	92.42	-22.9	48.01	48.5	722.78	371.75	94.4
西 部	切 削 型	35.82	36.13	-0.9	16.89	112.1	287.13	179.23	60.2
	成 形 型	1.37	4.16	-67.1	2.53	-46.0	18.66	30.95	-39.7
	計	37.19	40.29	-7.7	19.43	91.4	305.79	210.18	45.5

P：暫定値 R：改定値

四捨五入により合計値及び%は一致しない場合がある。

出所：USMTC

◆台湾工作機械輸出入統計(2010年1～9月)

台湾工作機械機種別輸出入統計(2010年1～9月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2010.1-9	2009.1-9	前年比(%)	2010.1-9	2009.1-9	前年比(%)
放電加工機	98,898	54,368	81.9	188,585	64,616	191.9
マシニングセンタ	640,315	334,118	91.6	35,503	19,456	82.5
旋盤	392,070	297,987	31.6	69,817	27,437	154.5
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	263,593	144,971	81.8	24,050	13,830	73.9
研削盤	123,852	61,271	102.1	46,650	44,390	5.1
歯切り盤・歯車機械	114,449	70,406	62.6	38,759	20,722	87.0
切 削 型 合 計	1,633,177	963,121	69.6	403,364	190,451	111.8

出所：海関進出口統計月報

台湾工作機械国別輸出入統計(2010年1～9月)

(単位：千USドル)

輸 出					輸 入				
順 位	国 別	2010.1-9	2009.1-9	前年比(%)	順 位	国 別	2010.1-9	2009.1-9	前年比(%)
1	中国・香港	993,461	471,155	110.9	1	日 本	303,268	112,036	170.7
2	米 国	106,206	101,225	4.9	2	ド イ ツ	45,376	34,938	29.9
3	イ ン ド	87,735	40,263	117.9	3	ス イ ス	28,792	14,747	95.2
4	タ イ	83,860	48,629	72.4	4	中国・香港	28,706	16,363	75.4
5	ブラジル	80,746	25,367	218.3	5	米 国	19,551	14,521	34.6
6	トルコ	80,122	43,225	85.4	6	韓 国	16,426	10,696	53.6
7	マレーシア	74,810	35,437	111.1	7	イ タ リ ア	8,647	17,272	-49.9
	そ の 他	590,392	501,939	17.6		そ の 他	55,671	21,214	162.4
	合 計	2,097,332	1,267,240	65.5		合 計	506,437	241,787	109.5

出所：海関進出口統計月報

◆ドイツ工作機械貿易統計(2010年第3四半期)

ドイツ工作機械輸出統計(2010年第3四半期)

	金額 (百万ユーロ)					前年比 (%)			シェア (%)		
	2007	2008	2009	1-3Q09	1-3Q10	2008	2009	1-3Q10	2008	2009	1-3Q10
レーザー加工機、イオンビーム、超音波加工機	611.8	631.8	333.9	239.4	307.7	+3	-47	+29	7.7	5.5	7.4
電気加工機	72.1	63.3	44.6	32.9	35.7	-12	-30	+9	0.8	0.7	0.9
マシニングセンタ	1,288.3	1,301.5	944.1	687.7	500.6	+1	-27	-27	15.9	15.6	12.1
トランスファーマシン	143.3	119.6	149.4	111.8	42.9	-17	+25	-62	1.5	2.5	1.0
旋盤	770.8	844.8	595.6	423.5	398.6	+10	-30	-6	10.3	9.9	9.6
ボール盤	57.6	57.7	51.6	31.6	41.8	+0	-11	+32	0.7	0.9	1.0
中ぐり盤、中ぐりフライス盤	131.3	145.0	128.2	83.8	113.1	+10	-12	+35	1.8	2.1	2.7
フライス盤	389.3	396.2	285.2	216.4	218.4	+2	-28	+1	4.8	4.7	5.3
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	788.2	824.0	586.8	420.3	402.0	+5	-29	-4	10.0	9.7	9.7
歯切り盤	403.2	548.4	527.9	397.7	339.1	+36	-4	-15	6.7	8.8	8.2
金切り盤及び切断機	160.6	168.3	89.3	70.0	57.1	+5	-47	-18	2.1	1.5	1.4
その他の工作機械	46.2	96.2	71.8	47.0	43.0	+108	-25	-9	1.2	1.2	1.0
金属切削型合計	4,862.6	5,196.8	3,808.4	2,762.2	2,499.9	+7	-27	-9	63.3	63.1	60.2

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械輸入統計(2010年第3四半期)

	金額 (百万ユーロ)					前年比 (%)			シェア (%)		
	2007	2008	2009	1-3Q09	1-3Q10	2008	2009	1-3Q10	2008	2009	1-3Q10
レーザー加工機、イオンビーム、超音波加工機	479.7	463.5	186.4	143.1	158.3	-3	-60	+11	12.5	8.8	11.7
電気加工機	101.3	85.7	42.3	31.4	29.5	-15	-51	-6	2.3	2.0	2.2
マシニングセンタ	397.3	443.8	216.6	158.2	119.2	+12	-51	-25	12.0	10.2	8.8
トランスファーマシン	52.8	71.7	34.0	23.7	20.8	+36	-53	-12	1.9	1.6	1.5
旋盤	603.7	658.5	342.5	269.0	196.2	+9	-48	-27	17.7	16.2	14.5
ボール盤	25.1	28.5	16.1	12.5	9.9	+14	-43	-21	0.8	0.8	0.7
中ぐり盤、中ぐりフライス盤	72.3	93.8	109.4	97.7	26.9	+30	+17	-72	2.5	5.2	2.0
フライス盤	93.3	114.4	96.0	74.1	39.0	+23	-16	-47	3.1	4.5	2.9
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	288.0	368.6	210.5	167.6	120.4	+28	-43	-28	9.9	9.9	8.9
歯切り盤	63.5	103.5	47.8	35.1	23.9	+63	-54	-32	2.8	2.3	1.8
金切り盤及び切断機	40.3	47.7	31.1	23.3	19.5	+18	-35	-16	1.3	1.5	1.4
その他の工作機械	11.1	16.1	14.8	11.9	5.3	+45	-8	-55	0.4	0.7	0.4
金属切削型合計	2,228.4	2,495.9	1,347.5	1,047.6	768.8	+12	-46	-27	67.2	63.5	57.0

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：製造業設備稼働率は若干増加(11月)

2010年11月の設備稼働率（速報値）は、全製造業で72.8%、耐久財製造業で70.9%、機械製造業で75.8%となった。

前月比で見ると、全製造業と耐久財製造業では0.2ポイント、機械製造業では1ポイント夫々増加している。

一方、前年同月比で見ると全製造業では3.8ポイント増加している。

米国製造業の設備稼働率月次推移



(FRB Statistical Release G.17(419)/12月15日付)

◆米国：設備機器購入優遇税制法が2010年に成立

設備機器購入に対する優遇税制法が2010年に成立、施行されている。

新法の中の100%ボーナス減価償却措置は、2010年9月8日から2011年12月31日の期間に購入され、設置された新規設備機器に適用される。

2010年9月8日以前に購入された設備機器に対しては50%ボーナス減価償却措置が適用される。

2012課税年度においては、新規設備機器購入に対して50%ボーナス減価償却措置が適用可能となっている。

このボーナス減価償却条項では、償却可能な設備機器価額に上限が設けられていない。

50万ドルの経費計上措置は、2010、2011課税年度に発注、設置した新規あるいは中古設備機器に対して延長されている。

さらに、減価償却が可能な設備機器購入額の上限は200万ドルに引き上げられている。

例えば、ある製造業者が80万ドルで購入した新規機器で設備更新した場合、新法において、同社は初年度にその資産の100%（80万ドル）を減価償却することができる。

80万ドルを投じて中古機器で設備更新した場合、その製造業者は初年度にその資産の68%を減価償却できることになる。（新法が

成立していなければ、その減価償却率は27%であった）

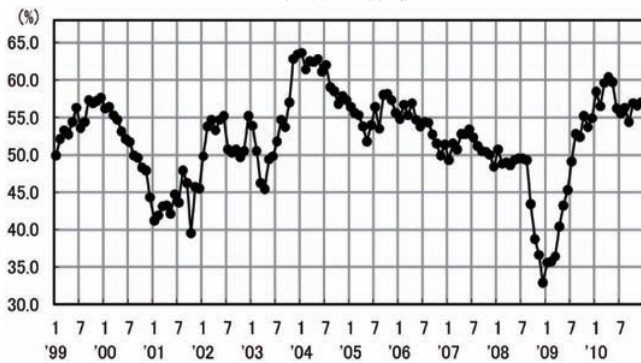
2012年、80万ドルの購入が新規機器の場合、50%ボーナス減価償却措置および179条の控除措置（50万ドルの購入に対して12万5,000ドル）を活用してその資産の64%が償却可能となる。（米国製造技術工業協会AMTプレスリリース 2010年12月17日付）

◆米国：製造業部門、17ヵ月連続で成長(12月)

米サプライ・マネジメント協会（ISM）の購買管理指数（PMI：製造業350社以上のアンケート調査に基づく月次景況指数）によると、2010年12月のISM指数（PMI）は57.0%と景況感の分かれ目である50%を上回り、製造業部門の活動も17ヵ月連続で成長した。一方、経済全体の動向はPMIが上昇・下降の分岐点41.2%を20ヵ月連続で上回り、経済成長を遂げた。

12月の調査結果について、ISMは次のようにコメントしている。「製造業部門は引き続き成長している。2010年に製造業の回復が見られ、その回復は特に自動車、金属、食品、機械類、コンピューター、エレクトロニクスの各部門に著しく、住

ISM 指数の推移



宅部門は引き続き苦戦している」

なお、12月の製造業の景況感について、対象18業種中、次の11業種が「企業活動を拡大した」と回答している。アパレル・皮革製品、鉄鋼・非鉄金属、金属製品、機械類、コンピューター・電子製品、食品・飲料・たばこ製品、繊維製品、プラスチック・ゴム製品、輸送用機械、電気機器・家電製品・部品、化学製品。

ISMが発表した12月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2010年 12月指数	2010年 11月指数	備 考
ISM 指 数 (PMI)	57.0	56.6	11月比0.4ポイント上昇。 製造業は17ヵ月連続成長。 12月のPMI (57.0%) は年 率換算実質GDP成長率5% に相当。
生 産	60.7	55.0	11月比5.7ポイント上昇。 拡大の基準である50.4%を 19ヵ月連続で上回った。9 業種が成長を報告した。
新 規 受 注	60.9	56.6	11月比4.3ポイント上昇。 18ヵ月連続で増加した。 10業種が成長を報告した。
受 注 残 高 (季節調整なし)	47.0	46.0	前月比1ポイント上昇。6 業種が増加を報告した。
サプライヤー納期	55.9	57.2	11月比1.3ポイント低下。 長期化の基準である50% を19ヵ月連続で上回った。 8業種が長期化を報告した。
在 庫	51.8	56.7	前月比4.9ポイント低下。6 ヵ月連続で増加。6業種が 在庫増を報告した。
雇 用	55.7	57.5	11月比1.8ポイント低下。 13ヵ月連続で増加。9業種 が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	72.5	69.5	前月比3ポイント上昇。18 ヵ月連続で50%を超過。 14業種が上昇を報告した。
輸 出 受 注	54.5	57.0	前月比2.5ポイント低下。 18ヵ月連続の増加。8業種 が増加を報告。
原 材 料 輸 入	50.5	53.0	前月比2.5ポイント低下。 16ヵ月連続の増加。6業種 が増加を報告した。

(ISM Manufacturing Report on Business 2011年1月3日付)

◆世界鋳型製造・工具・デザイン見本市「Euromold 2010」が閉幕

独フランクフルトで12月1日から開催されていた世界鋳型製造・工具・デザイン見本市「Euromold 2010」が12月4日、閉幕した。17回目の今回は38ヵ国から1,384社が出展し、昨年から約2.2%増加した。期間中の来場者数は86ヵ国から5万5,301人となり、昨年(5万6,372人)と同程度だった。総来場者に占める外国人の割合は40.9%に増え、昨年を4.3ポイント上回った。国籍別では、イタリア、トルコ、オーストリア、スイス、オランダ、スペイン、中国、ベルギー、フランス、ロシアなどからの来場者が目立った。

(MaschinenMarkt 2010年12月13日付)

◆独VDW、インプラント・人口骨関連のフォーラムを主催

ドイツ工作機械工業会(VDW)は3月17日にカールスルーエで、インプラントや人工関節の製造技術にスポットライトを当てた専門フォーラム「Metal meets Medical」を主催する。「Metal meets Medical」は今年2月の「国際金属加工機械・技術見本市(METAV 2010)」で特別規格展として実施されたもので、同企画展ではシーメンスと国内の工作機械メーカーなどが共同で特別展を企画したほか、医療技術メーカーによる展示やフォーラムが開催された。METAVの次回開催は2011年となることから、VDWは代替的な専門フォーラムとして「Metal meets Medical」の継続実施を決めた。

(VDW 2010年12月8日付)

◆新国際中古機械・機器見本市「Usetec」、出展スペースの予約順調

ドイツ・ケルンで4月に開催される国際中古機械・機器見本市「Usetec」で出展企業の申し込みが

順調に進んでいるようだ。同見本市はこれまで、「RESALE」の名称で開催されてきたが、来年から開催地をカールスルーエからケルンに移し、新名称「Usetec」として新出発する。主催者団体によると、出展希望企業数はすでに200社を超えており、そのうち3割以上（24ヵ国）が国外からの申し込み。出展スペースの7割は、すでに予約済みとなっている。

同見本市は欧州各国の中古機械販売協会とも連携する方針で、オランダ中古機械協会（Dutch Used Machinery Association）は今回、独自ブースを設けて参加する。

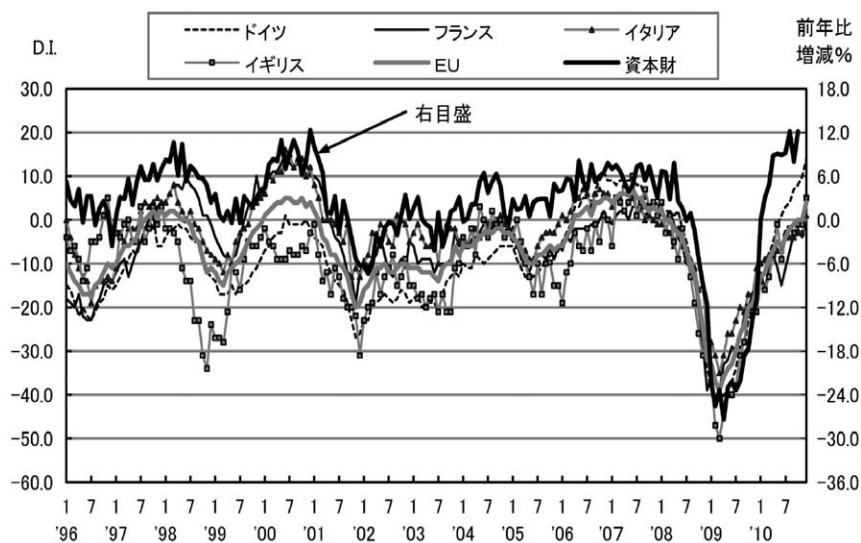
（MaschinenMarkt 2010年12月16日付）

◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移(12月)

欧州委員会の発表した2010年12月のEU主要国製造業景気動向指数（D.I.）（修正後）によると、EU全体では4ポイント上昇している。国別では、イギリスが6ポイント、ドイツ、フランス、イタリアが4ポイント夫々上昇している。

一方、ユーロ圏の資本財生産については、2010年10月は前年同月比で12.1%増となった。なお、2010年11及び12月の数字は未発表である。

EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移



（欧州委員会 Monthly Survey of Manufacturing Industry 及び Industrial Production 調査）

3. 工作機械関連企業動向

◆ドイツ：MAG社、Samputensili社の歯車工作機械工場を引き継ぐ

独MAGグループは、2010年10月にイタリアの歯車製造機器メーカーであるSAMP Groupから取得した歯車工作機械事業部門、Samputensili社のドイツ・ケムニッツ工場を引き継いでいる。同時に、同社はMAG Modul Verzahntechnik GmbH社と改名されている。

ケムニッツ工場では100年を超える歯車ホブ加工の伝統がある。

MAG社の現行製品ラインは、マシニングセンタ用の歯車製造機械とモジュールによって拡充される。

（MAG社ホームページ 2011年1月5日付）

◆日本：Mikron Machining社とDKSHジャパン社、日本国内で事業強化

スイスのMikron Machining社とDKSHジャパン(株)は、日本国内市場で事業を強化することを決定している。

日本における売り上げの伸びを加速させることを明確な目標に定め、Mikron Machining社の日本の

既存事業を2011年1月1日付けでDKSHジャパン社に統合する。

両社は、今回のビジネス協定が重要な節目となると考えており、日本市場における両社の基盤をさらに強化するものとなるう。

過去30年間にわたって、Mikron Machining社のトランスファーマシン・システムは日本の自動車、医療機器、電子機器、筆記具業界において広範に導入されて

いる。

Mikron Machining社の製品は、特殊な高精度・大

量生産のための機械加工ソリューションを提供し、日本の高品質を強く求める市場の期待に対応している。

市場を拡張するサービス（マーケットエクспанションサービス）の大手プロバイダーであるDKSH ジャパン社は、Mikron Machining社のために販売マーケティング、プロジェクトマネジメント、アフターサービスを提供していく。

（Mikron社プレスリリース 2010年12月16日付）

4. その他

◆ユーザー関連トピックス

中国：華中数控、数値制御システムの量産化に承認

深セン証券取引所の振興企業向け市場「創業板」に上場予定の武漢華中数控股フン有限公司が申請したデジタル化高級数値制御システムの量産プロジェクトが、このほど中国国家発展改革委員会の認可を受けた。総事業費は1億7,600万元。うち国から920万元の支援を受ける。年間生産能力は、中高級数値制御システムが1万5,000セット、交流ドライブが5万セット。完成すれば、生産能力が不足している同社の現状を大いに緩和できる。陳吉紅董事長によると、数値制御システムは数値制御旋盤の「脳」に当たる。同社が開発に成功した高級数値制御システム「華中8型」は世界先端水準に達している。

（新華社新華網ニュース 12月27日付）

中国：中国、11年の鉄道インフラに7,000億元

中国の劉志軍鉄道相は4日開催された「全国鉄道工作会議」で、2011年末の中国の高速鉄道の営業距離が1万3,000キロメートルを超える見通しを示した。2011年は鉄道インフラに7,000億元を投入予定。新たに敷設する鉄道距離は本線が7935キロメートル、複線が6211キロメートル。年内に新規着工する鉄道事業は70件で、そのうち高速鉄道と都市間鉄道が15件、区間幹線と石炭輸送専用線が26件。

2015年には鉄道営業距離が12万キロメートルを超え、そのうち高速鉄道が1万6,000キロメートル以上となり、高速鉄道を軸とした総延長5万キロメートルの快速鉄道ネットワークがほぼ整うことになる。

（新華社新華網ニュース 1月5日付）

インド：現代インディア、新ディーゼル・エンジン工場を建設

韓国・現代自動車のインド子会社、現代モーター・インディアは、今後3年間で40億ルピーを投じて、年産能力15万基のディーゼル・エンジン工場を建設する計画。パク・ハンウ社長の話として、PTI通信が12月27日から28日にかけて報じている。

パク社長によれば、新工場では、排気量1,100cc、1,400cc、1,600ccという3種類のディーゼル・エンジンを生産。これらは、いずれも国内販売モデルに搭載される予定で、対象は新型車と既存車種の新モデルの両方になる見通し。現代インディアは今年、年産能力を67万台に増強して、新型車と新モデルを含めた3車種を発売する予定（いずれも国内生産）。新ディーゼル・エンジン工場の完成は2013年末から2014年初めを予定。すでに採算性調査が完了しており、数ヵ月後にも立地が発表される見込み。立地については、グジャラート州が有力視されている。匿名のグジャラート州政府高官がPTI通信に語ったところによれば、12月中旬にも、現代インディアの代表団が同州を訪問。デリーームンバイ産業大動脈（DMIC）のルートに近い州都アーメダバード近郊の港湾都市ドレラの特別投資地域（SIR）内にある8億平米の用地を視察したという。

（インドビジネスセンター 1月4日付）

インド：韓国の斗山重工業、発電機器生産でインドに単独進出か

スシル・クマール・シンデ電力相は1月3日、韓国の重工・建設大手の斗山重工業がハリヤナ州で

発電機器の製造工場を立ち上げるプロジェクトへの単独出資（100%外資）に関心を示していることを明らかにした。PTI通信が同日付で報じている。同相は次のように語った。「斗山重工業は先ごろ、ハリヤナ州の賃借地で立ち上げる電設製造プロジェクトへの単独出資に関心があることを書面で伝えてきた。このプロジェクトが斗山の希望どおりに実現すれば、同社はハリヤナ州で新設する工場ではボイラーとタービンを製造することを計画している」。シンデ電力相によると、インドでの同様のプロジェクトへの出資に関心を示してきた外資系企業はこれまで国内企業と共同で出資する形態を取ってきた。たとえば、日本の三菱重工はラーセン&トゥブロー（L&T）、東芝はジンダル、伊アンサルドはGBエンジニアリング、仏アルストムはバーラト・フォージと、合弁会社（JV）を設立したり提携契約を結んでいるという。

（インドビジネスセンター 1月5日付）

アルミ MMC の加工技術の開発プロジェクト、独研究所が2011年から始動

ドイツのハノーバー統合生産研究所（IPH）は2011年から、アルミニウムとセラミックスの複合材料（アルミニウム基MMC：メタル・マトリックス・コンポジット）の生産技術に関する研究プロジェクトを開始する。期間は2年間で、ドイツ研究振興協会（DFG）が支援している。

アルミニウム基MMCは、アルミニウムを母材（マトリックス）とし、その中にセラミックス強化材を複合化させた素材で、安定性と耐久性に優れる。一方、フライス盤で切削加工すると品質が損なわれるほか、生産コストも高い問題がある。

同研究所では、同材料を鍛造加工することにより、これらの問題を解決する方針。鍛造加工ではアルミニウム基MMCの強度が増す可能性もあると見込んでいる。

ただ、これまでの研究で、アルミニウム基MMCの鍛造加工では、加工した際に端にできる余分な

部分を切削しなければならない問題が指摘されている。同研究所ではこの余分な部分をつくらない鍛造加工方法の開発に取り組む。切削する部分がなければ無駄がなくなり、製造コストを大幅に抑えられるとしている。

（atzonline 自動車関連ニュースサイトの報道 2010年12月14日）

コルベンシュミット、倒産した部品メーカー買収

軍需大手・ラインメタル傘下の自動車部品メーカーであるコルベンシュミット・ピーアブルクは12月16日、8月に倒産した自動車部品メーカー、ブルカート・ファールツォイクタイレ（以下：ブルカート）を15日付で買収したと発表した。ブルカートは商用車向け構造部品に特化しており、コルベンシュミットは同社を傘下に収めることで、部品事業を強化する狙い。カルテル当局からの認可はすでに下りているという。

ブルカートはトラックやバス、農耕・林業機械、建築機械などディーゼル車両・機械の交換部品を手がけており、ピーアブルクによると同業界で欧州最大手。世界120ヵ国以上で販売を行っており、2009/10年度の売上高は3,500万ユーロだった。

ブルカートはコルベンシュミットの傘下入りに伴い、社名をBF ジャーマニーに改めるとともに、形態を有限合資会社（GmbH Co.KG）から有限会社（GmbH）に変更する。ただ、買収後も独立した子会社としてこれまで通り事業を継続するとしている。

（PressBox 2010年12月16日付）

PSA、スロバキア工場の生産拡大へ

スロバキアのイベタ・ラディツォバー首相は12月15日、仏自動車大手PSA プジョー・シトロエンが、同国での生産を拡大する方向で検討を進めていることを明らかにした。

PSAは2005年にスロバキア西部トルナバに進出。プジョー「207」、シトロエン「C3」の生産を行っ

ている。トルナバ工場の生産能力は年間30万台だが、フル稼働体制にはなっていない。ラディツォバー首相は記者団に対し、「生産部門で従業員を1,000人増員する方向で協議を進めている」と語っ

た。PSAの広報担当者は、「トルナバ工場での生産を拡大するため人員を増強する」と述べたが、増員の規模や実施時期については明言を避けた。

(Bloomberg 2010年12月15日付)

5. 日工会外需状況(12月)

外需【12月分】

主要3極別受注

①アジア

・「東アジア」は、中国が減少したものの韓国が増加。2カ月連続で300億円超と好調を維持

・「その他アジア」は、インドの増加などで、4カ月ぶりに70億円台を回復

②欧州

・ユーロ安を背景に輸出が好調なドイツは増加したが、その他多くの国・地域で減少

③北米

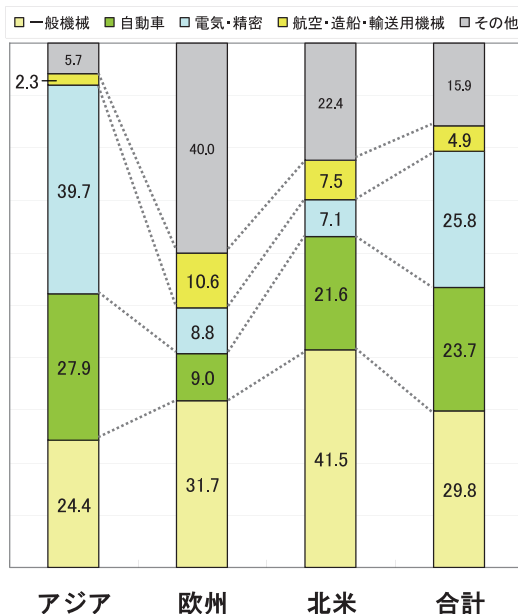
・すべての国(アメリカ、メキシコ、カナダ)で増加

・アメリカは優遇税制期限切れ前の駆け込み需要と期末効果で増加幅拡大

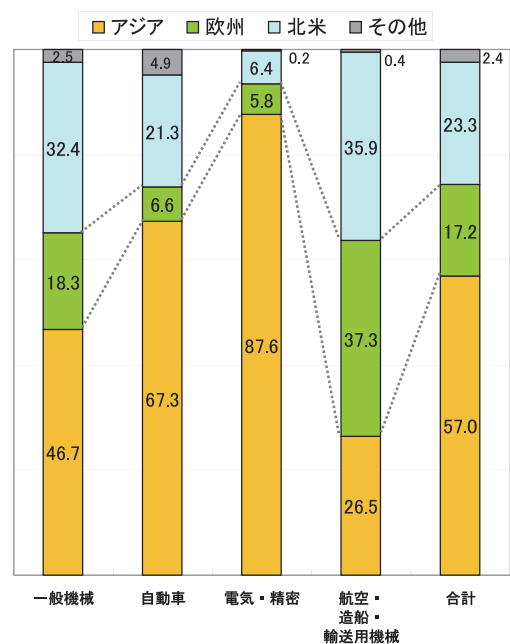
業種	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	384	△1.6 2カ月ぶり減少	+32.1 15カ月連続増加
東アジア	312	△4.5 2カ月ぶり減少	+35.7 15カ月連続増加
韓国	44	+54.2 2カ月ぶり増加	2.6倍 14カ月連続増加
中国	255	△8.2 2カ月ぶり減少	+25.8 15カ月連続増加
その他アジア	71	+13.5 2カ月連続増加	+18.1 15カ月連続増加
インド	25	+75.8 4カ月ぶり増加	2.4倍 2カ月連続増加
欧州	116	△8.6 4カ月ぶり減少	2.1倍 12カ月連続増加
ドイツ	49	+5.9 4カ月連続増加	4.2倍 12カ月連続増加
北米	157	+27.8 3カ月ぶり増加	2.3倍 12カ月連続増加
アメリカ	141	+21.3 3カ月ぶり増加	2.4倍 12カ月連続増加
外需計	673	+2.3 2カ月連続増加	+57.9 14カ月連続増加

外需【12月分】

機種別・主要3極別受注構成

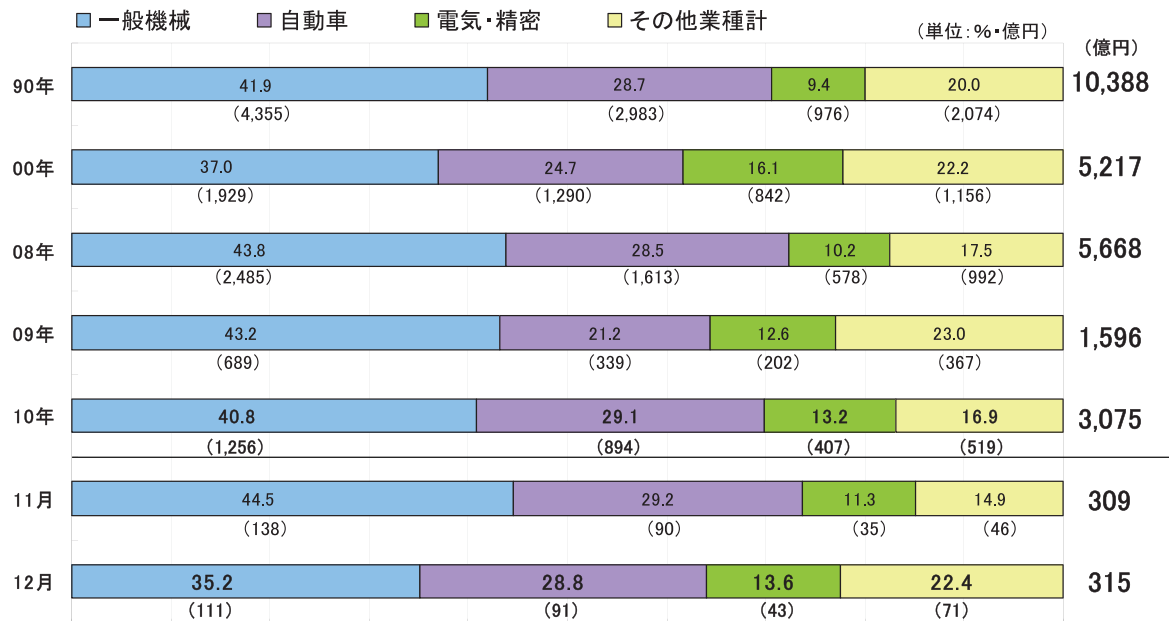


出所: 日本工作機械工業会



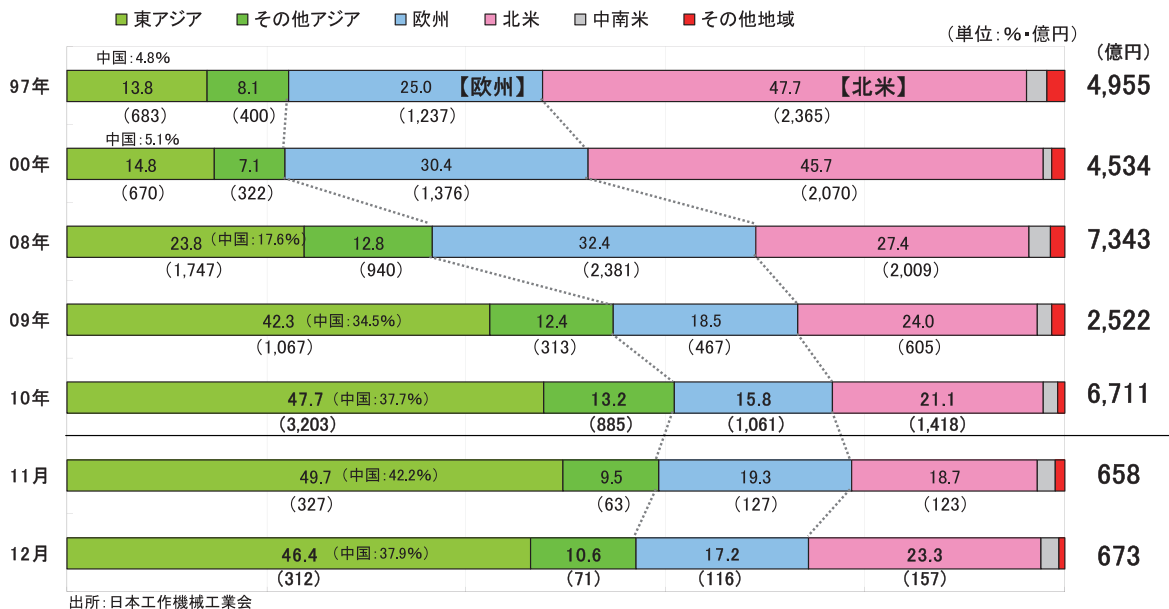
出所: 日本工作機械工業会

受注内需 主要業種構成比の推移



- ・12月は、11月に比べ電気・精密、その他業種計の割合が増加
- ・10年累計を09年と比較すると、自動車、電気・精密の割合が増加

受注外需 地域別構成比の推移



- ・12月は、北米が占める割合が拡大。欧州・北米の合計が4割超え
- ・10年累計は、アジアの割合が60.9%を占め、初めて6割超え

受注累計【2010年累計】

受注総額:9,786億円（前年比 +137.6%【2.4倍】）

(1)内需 : **3,075億円**（内需比率 31.4%）
（前年比 +92.6%）

- ・主要4業種は、すべて前年比増加
- ・その他の業種は「官公需・学校」のみ前年比減少

業種	受注額 (億円)	前年比 (%)
一般機械	1,256	+82.2
うち金型	164	+40.6
自動車	894	2.6倍
うち部品	597	3.5倍
電気・精密	407	2.0倍
航空・造船・ 輸送用機械	140	+25.6

(2)外需 : **6,711億円**（外需比率 68.6%）
（前年比 2.7倍）

- ・主要3極は、すべて前年比増加
- ・アジアでは欧州、北米に比べ金額・伸び率ともに高水準
- ・外需比率は過去最高を記録

業種	受注額 (億円)	前年比
アジア	4,088	3.0倍
東アジア	3,203	3.0倍
その他アジア	885	2.8倍
欧州	1,061	2.3倍
北米	1,418	2.3倍